「瀬戸内市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の考え方(案)

1. 趣旨

瀬戸内市では、性の多様性を尊重し合うことで、ありのままの自分を表現し、自分の生き方を自由に選択できるとともに、社会全体がそれぞれの生き方を認め合う風土をつくり、豊かで活力のある人権尊重のまちの実現を目指すため、「瀬戸内市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を創設します。

2. 定義

(1) 性的少数者

性的指向(恋愛感情や性的な関心の対象となる性別の指向をいう。)が必ずしも異性愛のみではない者等、又は性自認(自分が認識している性別をいう。)が出生時の性と異なる若しくは明確でない者をいう。

(2) パートナーシップ

一方又は双方が性的少数者である2人が、互いを人生のパートナーとし、日常の生活において相互に協力し合うことを約した関係をいう。

(3) ファミリーシップ

パートナーシップの関係にある2人の一方又は双方の子(実子又は養子をいう。)を含めた近親者その他市長が認める者と生計が同一であり、愛情をもってその子等を養育し、又は扶養することを約した家族の関係をいう。

(4) ファミリーシップ対象者

ファミリーシップを形成する者のうち、パートナーシップにある2人以外の者をいう。

(5) 宣誓

パートナーシップの関係にある者同士が、市長に対し、双方が互いのパートナーであることを宣誓することをいう。また、パートナーシップにあることを宣誓した者が、市長に対し、ファミリーシップにあることを宣誓することをいう。

3. 制度の概要

一方又は双方が性的少数者であり、互いをパートナーとして尊重し、日常生活において相互に協力し合う「パートナーシップ関係」にあることを市に宣誓し、又は、「パートナーシップ関係」にあることを宣誓した人の一方又は双方の子(実子又は養子をいう。)を含めた近親者等を「ファミリーシップ関係」にあることを市に宣誓し、市がその届出を受理したことを公に証明する制度です。

この制度に法的効力はありませんが、性的少数者の方の生きづらさや不安の軽減、差別や偏見の解消、社会的な理解の促進につながり、多様性が尊重された社会の実現を目指すものです。

4. 宣誓を行うことができる者

以下のすべてに該当する一方または双方が性的少数者の2人が対象です。

- (1) 成年に達していること。
- (2) 一方又は双方が市内に住所を有している(市内への転入を予定している場合を含む。)こと。
- (3) 双方に配偶者がいないこと。
- (4) 宣誓者以外の方とパートナーシップの関係にないこと。
- (5) 宣誓者同士の関係が近親者でないこと。
- (6) ファミリーシップを宣誓しようとする者は、パートナーシップにある者の一方又は双方の子を含めた近親者で、生計が同一であること。

5. 必要な書類

- (1) 住民票の写しもしくは住民票記載事項証明書
- (2) どちらも市内に住所がない場合は、市内への転入する予定が記載された転出証明書の写し
- (3) 独身であることを証明する書類(戸籍抄本、独身証明書等)。
- (4) 本人が確認できる書類(マイナンバーカード、旅券、運転免許証等)
- (5) ファミリーシップの関係にあることを宣誓する場合は、一方又は双方の近親者であること及び生計が同一であることが証明できる書類
- (6) 通称名を使用する場合は、日常的に通称名を使用していることが確認できる書類2点(住所が記載された郵便物、顔写真付き写真証等)
- (7) その他市長が必要と認める書類

6. 交付書類

- (1) パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓書受領証
- (2) カード型受領証

7. 通称名の使用

日常生活に用いている通称名を使用することができます。

8. 受領証の返還

パートナーシップ・ファミリーシップが解消された場合など、対象者の要件に該当しなくなったときは、受領証等を返還していただきます。

9. 受領証の活用

- (1) 市営住宅への入居などの行政サービス
- (2) 携帯電話会社の家族割の適用や生命保険の死亡保険金の受取などの民間サービス。
※民間サービスについては、企業によって導入の有無が違います。

10. 施行予定日

令和4年10月1日